みんなで、シナダレスズメガヤを除去しましょう！

シナダレスズメガヤを除去するには、手で引き抜いたり、草刈機等により刈ったり、除草剤をまいたりするなどの方法が考えられます。しかし、草刈機による除草は、シナダレスズメガヤと同じ場所に生えている貴重な植物や他の在来の植物も一緒に刈り取ってしまうことがありますし、除草剤も他の植物を枯らしてしまいます。シナダレスズメガヤ以外の在来の生物や、水質等への影響をできる限り小さくでき、効果も確実なのは、人間が直接確認しながら手で抜き取る除去です。

シナダレスズメガヤ
除去作業の様子

1 小さいうちに抜き取る（作業がしやすい）

発芽後 1 年程度の小さい株は人手で抜き取るのも簡単ですが、発芽後数年たっていたり、根元に土砂が溜まっている場合は、抜き取るには大変な労力と時間がかかります。大きい株は、鍬等を用いて掘り取る必要があります。

2 種子をつける前に抜き取る（拡大を抑止する:3 月下旬～7 月上旬まで）

シナダレスズメガヤは種をたくさん作り、また発芽率も高いため、繁殖力が強いです。翌年以降の数を減らすには、種をつける前に抜き取ることが効果的です。

3 生えなくなるまで数年間続ける

翌年また新たに発芽したり、上流から洪水より種が流れて来る場合もあるため、抜き取りは複数年、継続して実施する必要があります。

抜き取ったシナダレスズメガヤ

4 再び定着しないように処置する

抜き取ったシナダレスズメガヤは、再定着や種が落ちることを防ぐために、根を上にして現地に堆積するか、河川敷から運びだして、焼却処分（燃えるごみに出す）等を行いましょう。

シナダレスズメガヤ駆除作業時の用具
軍手や手鍬は必需品。

※シナダレスズメガヤ駆除作業の注意点等
服　　装：長袖、長ズボン、帽子、軍手
用　　具：手鍬
注意事項：暑い時期の作業は、十分な水分補給と日除けの対策をしましょう。

シナダレスズメガヤ 除去マニュアル

（背景写真）鬼怒川氏家大橋付近　2010 年 8 月

鬼怒川の外来種対策を考える懇談会

事務局：国土交通省　関東地方整備局　下館河川事務所

シナダレスズメガヤとは？

1 どこから来たの？

シナダレスズメガヤは、セイタカアワダチソウやセイヨウタンポポなどとおなじく帰化植物（外来植物）で、南アフリカ原産です。日本では、山腹緑化用として 1950 年代に初めて導入されました。緑化された箇所から、周辺に広がったと考えられています。

2 どんな植物なの？

イネ科の多年草で、細い葉が根元からたくさん生え、草丈が 60～120cm の大きな株になります。葉の長さは 40～60cm、幅は幅 1.5～2.0mm です。春から秋にかけて成長します。発芽後 1 年目で種子を作る株もあり、成長が早いです。開花期は夏～秋で、鬼怒川では種ができるのは 7～8 月頃から後です。とてもたくさんの種ができ、熟すと地面に落ちます。1 株で種を 10 万粒以上を生産した例があります。

鬼怒川中流域では、種ができる時期の直後（8～9 月）に多くの芽生えが確認されています。冬の間は葉が枯れますが、大きくなった株では、春に、枯れた葉の間から新しい芽が伸びてきます。

最初は小さいですが、何年かかけて大きくなり、たくさんの細い根を砂や小石の中にがっちり伸ばすので、人力で引き抜くのは大変で、洪水でもなかなか流されません。

3 どこに生えるの？

道ばたや河原等に生え、砂が多いところを好みます。鬼怒川の中流部には、1990 年代半ばくらいまではあまりみられませんでしたが、1998 年頃から急速に広がりました。2010 年の調査で、鬼怒川中流域全体で確認されています。

4 どんな被害があるの？

地面に届く太陽の光を遮るので、他の植物の成長が悪くなります。特にカワラノギクは、よく光が当たらないと花を咲かせることなく枯れてしまいます。

洪水の時に水の流れをさえぎること、根元に砂がたまりやすいことから、れき河原の環境が変化してしまいます。このため、カワラノギクやシルビアシジミ等、れき河原特有の生物が生育・生息できなくなり、多様な生態系が破壊されてしまいます。

シナダレスズメガヤが蔓延した河原　8 月（鬼怒川観音橋付近）
地面から束になって出て、こんもりとした印象になります。

茎や葉の
ようす
8 月

（右）開花 8 月

（下）花序 5 月

重機による表土の剥ぎ取り（上）とれき河原の再生工事（右）

（下）冬のシナダレスズメガヤ
1 月

シナダレスズメガヤと鬼怒川

1 河原生物の減少とシナダレスズメガヤ

鬼怒川では、シナダレスズメガヤは中流部全体で確認されており、特に東北新幹線橋梁付近（94～95k）が最も多く分布しています。

カワラノギクは、かつては鬼怒川中流域で広くみることができましたが、一時はわずか 500 株までに減ってしまいました。鬼怒川中流域では、1996 年から 2004 年の間に、カワラノギクが著しく減少しましたが、この間に、シナダレスズメガヤの面積が増加していました。（下図）

2 シナダレスズメガヤの除去方法

シナダレスズメガヤを効率的に除去するには、鬼怒川での分布状況や生活史等の特性をあらかじめ調べておく必要があります。

シナダレスズメガヤは主に種子により分布を拡大していることから、種子散布前に抜き取るなどの方法が効率的です。発芽後 1 年程度の株であれば、人手により容易に抜き取ることが可能ですが、発芽後数年が経過した株や、株元に土砂が堆積している場合、抜き取りが困難になります。特に、シナダレスズメガヤは多年生草本であるため、地下部を残すと、翌年以降に成長、開花してしまうので、重機等を用いて表土を剥ぎ取り、シナダレスズメガヤの根茎ごと取り除くことが有効と考えられます。

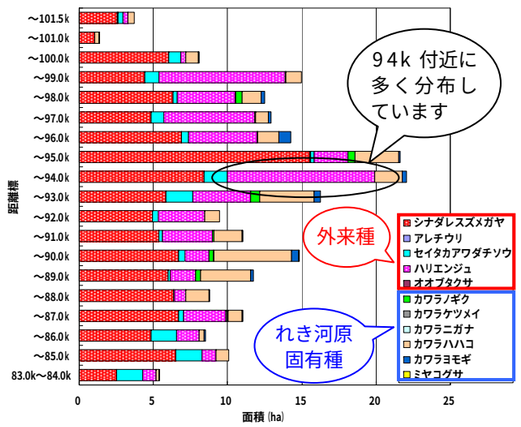

図-1　外来種とれき河原固有種の面積分布
（平成 21 年度調査）

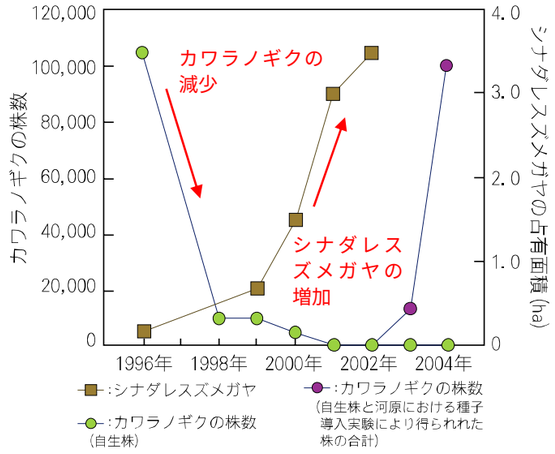

図-2　鬼怒川中流域におけるカワラノギクの株数とシナダレスズメガヤの占有面積（104km 付近 4.0ha）の年変化
（東京大学保全生態学研究室）